

## 編集後記

『比較文明研究』第十七号を無事発行することができました。

今回は、論文十本（日本語論文五本、英語論文四本、仏語論文一本）、英文研究ノート一本、書評一本を収録することができました。ご多忙の中、貴重な論考をご執筆下さいました先生方に感謝申し上げます。

日本語論文は、染谷臣道客員教授の日本とインドネシアの言語文化を手がかりとして展開された比較文明研究、大橋照枝客員教授のGNH（国民総幸福）の視点から行ったブータンとラダックの比較研究、欠端實客員教授の雲南省タイ族と日本の比較文化研究、松本亜沙子客員教授の木下熊雄研究の第二論文、岩澤知子研究員の異文化理解をめぐる日米の比較分析です。

英語論文は、平成二十三（二〇一一）年六月二十五日に、比文研と地球システム・倫理学会が共催した、国際シンポジウム「新しい地球倫理を求めて―覇権主義の終焉」の成果である、オーギュスタン・ペルク教授とマイケル・パレンシアロス教授の論文二本、また、十一月二十六日に開催した、比文研シンポジウム「辛亥革命一〇〇年と日本」の成果である、松本健一センター長の論文一本、インドネシア大学のバンバン教授とナディア教授による、日本・インドネシア関係を

論じた共著論文です。

仏語論文は、服部英二客員教授が全国日本学士会の会報『ACADEMIA』（No. 128）に「新しい地球倫理を問う」という題で発表された論文の仏語訳です。

英文研究ノートは、国際比較文明学会の理事を務められたウォレス・グレイ博士から投稿いただいたものであり、書評は、所功客員教授による『人間 昭和天皇』の成立を踏まえて執筆された書評です。

本年度も貴重な研究成果を『比較文明研究』に収録することができましたことに、改めて感謝申し上げます。

（立木教夫）